

アフリカ音楽を体感しよう

ミュージックコース

ワールドミュージック



講師 サカキマンゴ
さかき まんごー

略歴

親指ピアニスト

アフリカの楽器「親指ピアノ」の可能性を日本から更新する。タンザニア国立歌舞団の首席奏者、故フクウェ・ウビ・ザウォセにリンバの演奏と製作を、ジンバブエのガリカイ・ティリコーティにムビラの演奏を師事。ソロアルバム「limba train」が、ミュージックマガジン・ベストアルバム2006でワールドミュージック部門4位に選ばれるなど、各方面から高い評価を得ている。著書に「国際理解に役立つ世界の民族音楽 第4巻 アラブとアフリカの音楽」（若林忠宏監修こどもくらぶ編 2003年4月ポプラ社発行）など。

advice points

- 会場は、音響機材のある音楽室か視聴覚室が望ましい。
- ダンスをする場合もあるので、動きやすい服装が良い。

より発展的なワークショップを実施するために

- 受け入れ科目を社会科として、アフリカ史と合わせて学ぶ。
- ペットボトル以外の日用品で楽器を作ってみる。
- 図書館や博物館などで、アフリカのことを調べる。

目的

- 東アフリカの民俗と文化を知る。
- 西洋音楽とは違う音楽があることを知る。
- リズムやアンサンブルのおもしろさを体感する。

効果

- ドレミ以外にも音階があることを知り、世界の国・地域の音楽に関心を広げる。
- 手拍子や合奏など、体でリズムを感じて表現する楽しさを知る。

到達点

- 文化的背景を踏まえて、世界の音楽の特徴を知り、関心をもち、表現することの難しさや楽しさを体得する。

事前学習

生徒がペットボトルでマラカスを手作りする。

ワークショップの流れ（4日間〈1コマ/日〉）

マラカスで3拍子、足踏みで2拍子を同時に行う「ポリリズム」を体感

↓
「リンバ（親指ピアノ）」の説明と実演鑑賞のあと、リズムの解説

↓
スライドを見ながら、アフリカ文化について解説

↓
講師の演奏に合わせて、歌とダンスとマラカス演奏

↓
弓からできた楽器「ンドノ」の講師の演奏を鑑賞

↓
アフリカ民族のリンバを使った儀式を体感

事後学習

文化祭や国際交流行事に参加してミニ発表会をする。



…ワークショップを実施して…

講師の感想

生徒の手で、マラカスとしての新しい命を与えられたペットボトルが、身近なものを利用して楽器を作り、音楽を楽しむアフリカの地に住む人々の感性を最もよく伝えたように思う。生徒たちは、3拍子の歌を2拍子のリズムで歌うことを難しく感じたり、ダンスが恥ずかしくてもじもじしたりして、文化の違いをよく知ることができたのではないかな。

先生の感想

生演奏・スライド・講話・ダンスと多様な展開で、生徒も興味をもって取り組めた。音楽だけではなく、タンザニアの国の現状や生活、人々と音楽との関わりについての話も、講師が肌で感じてきたことをわかりやすく伝えていただいたので、より理解が深まった。

生徒の感想

- アフリカの音楽や文化を、写真や変わった形で学べてすごく楽しかった。
- 2拍子3拍子はなかなかできなかったけど、楽しかったし、踊りもとても印象的だった。
- アフリカでは、日本人が捨てたりするものでも楽器にしているのを見て、物を大切にしなければと改めて思った。お金がなくても音楽を楽しめるんだなと思った。